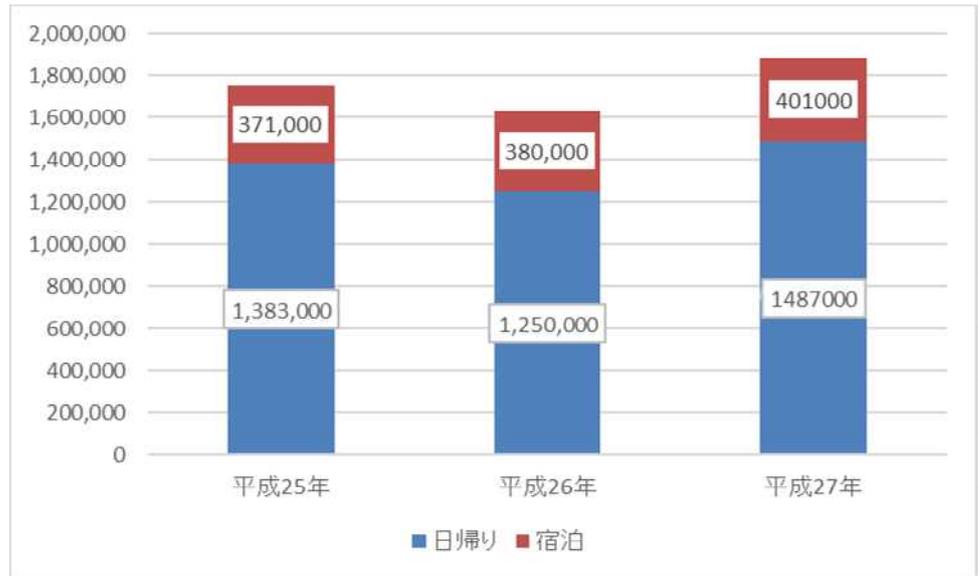
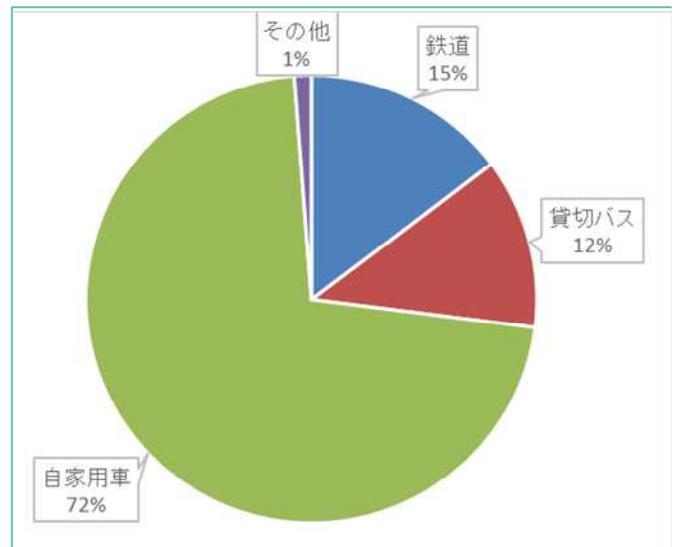


# 観光

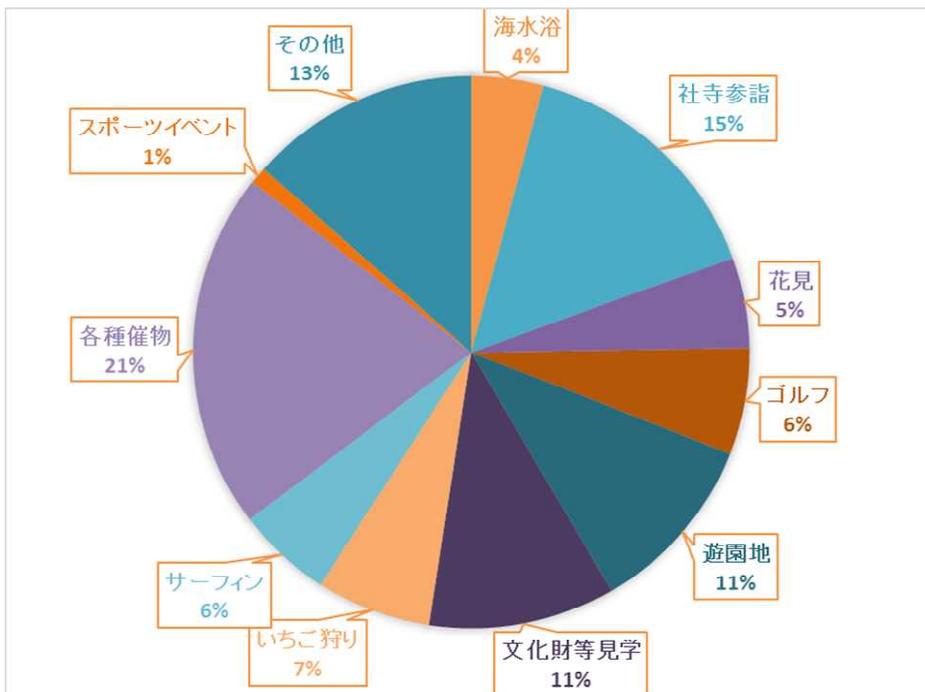
館山市には年間190万人の観光客が来ています。その79%は日帰りです。



	数	収容人員
ホテル	3	197
旅館	87	4226
簡易宿所(年間)	48	804
簡易宿所(季節)	9	178
公的施設(休暇村)	1	242
合計	148	5647



観光客の72%は自家用車を使っています。



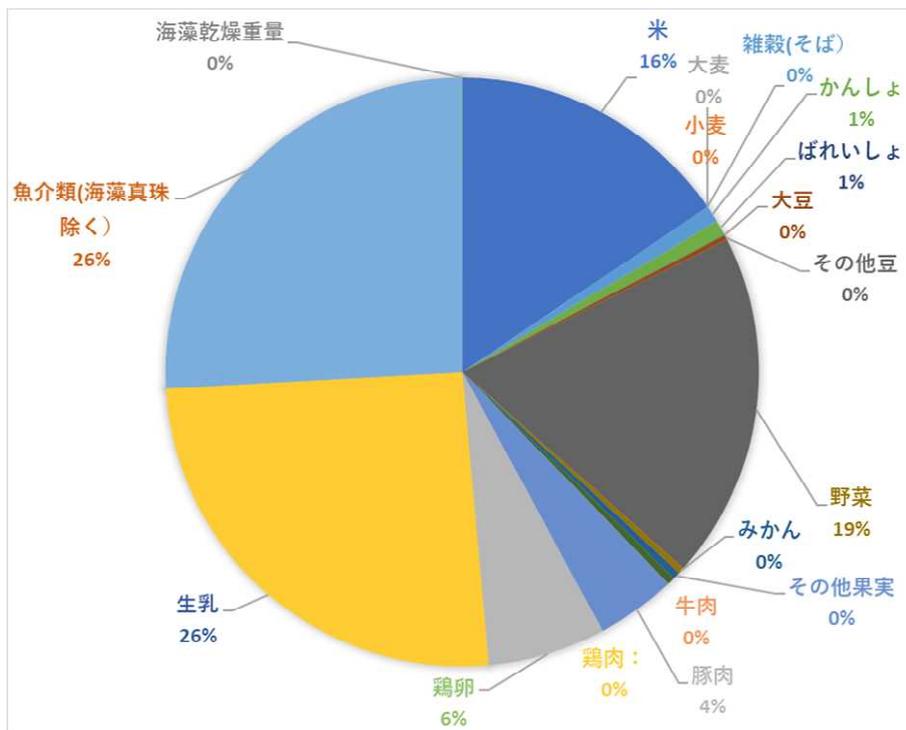
主な観光目的では、各種催物、社寺参詣、文化財等見学、遊園地が10%を超えています。

# 食料生産

館山市では、魚介類、生乳、野菜、米の生産量が多いです。

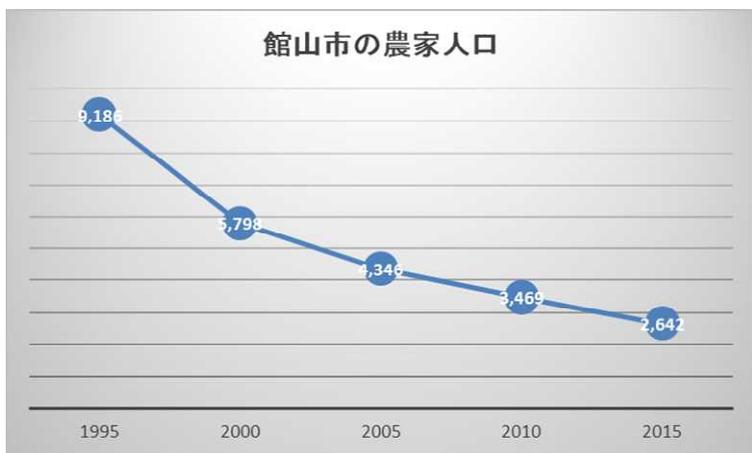
館山市の食料自給率は、**44.6%**です。（全国37.4%、全国ランク988/1742）

2015年度に館山市で生産された食料（重量比）



(出典) 永続地帯研究会

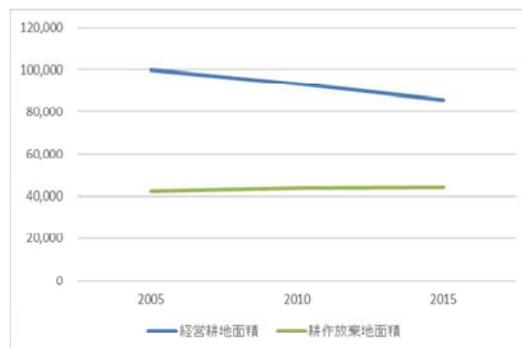
# 農業



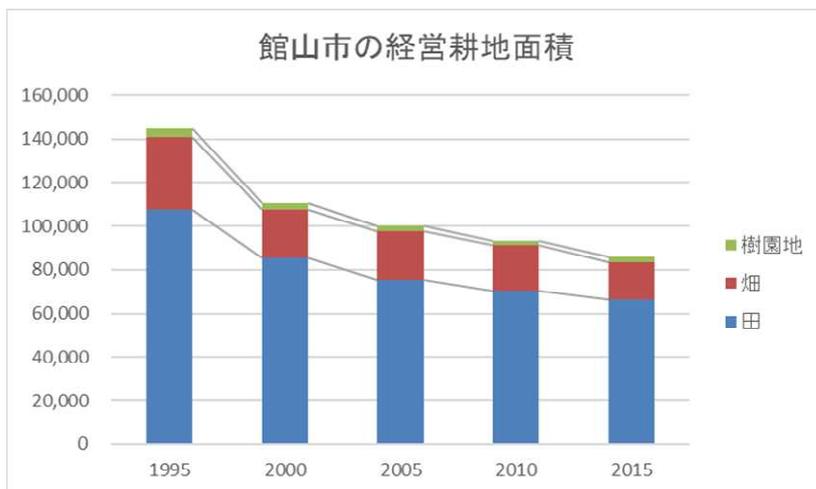
(出典) 農林業センサス

耕作放棄地比率

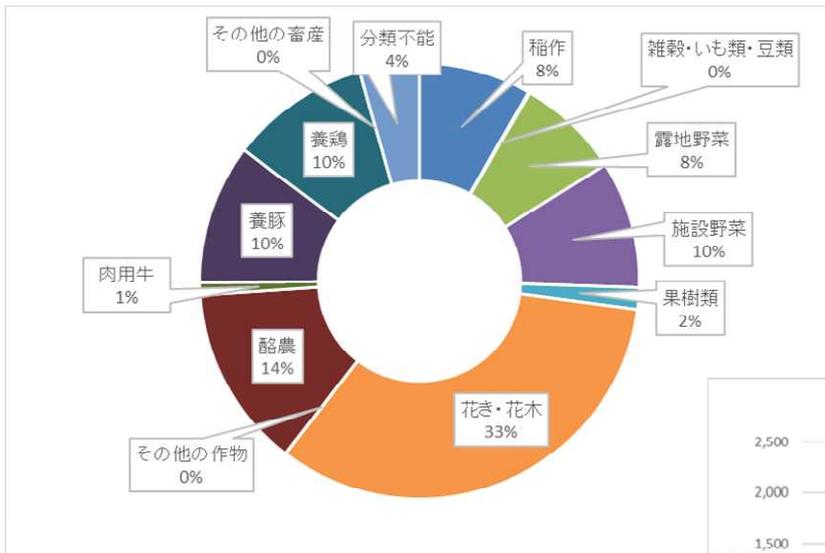
2005	2010	2015
29.7%	32.0%	33.9%



2015年の館山市の農家人口は1995年の約6割に減少しています。耕作放棄地比率が高まっています。



(出典) 農林業センサス

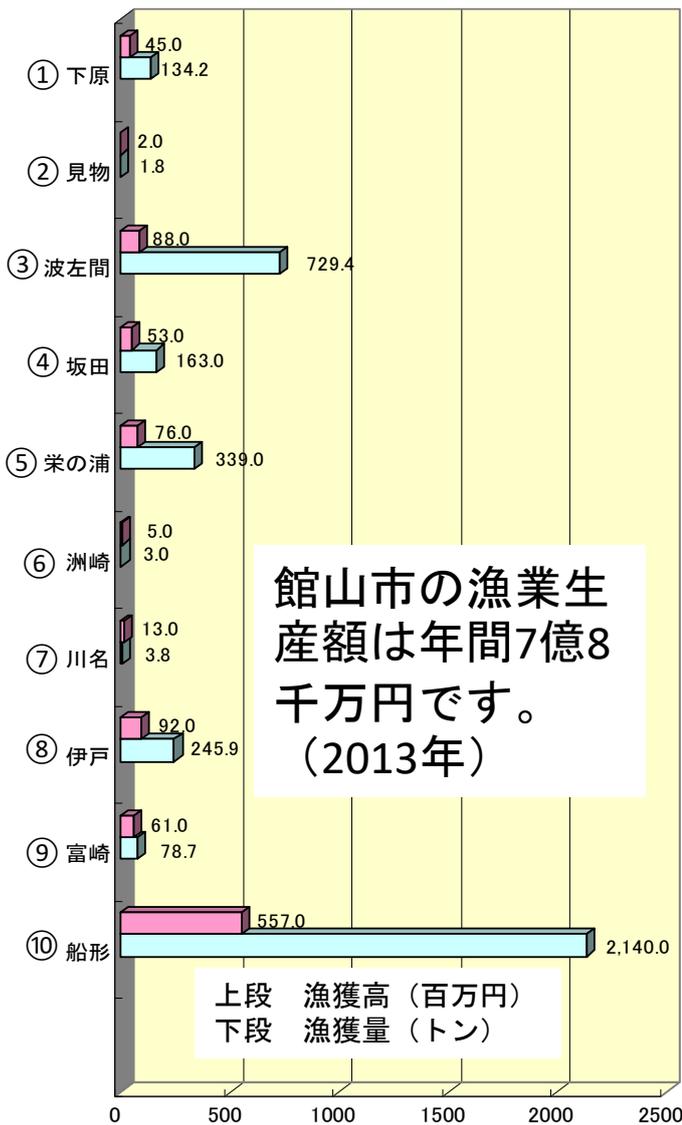


2010年の農作物販売金額は、年間約46億円です。部門別では花卉・花木が1/3を占めています。

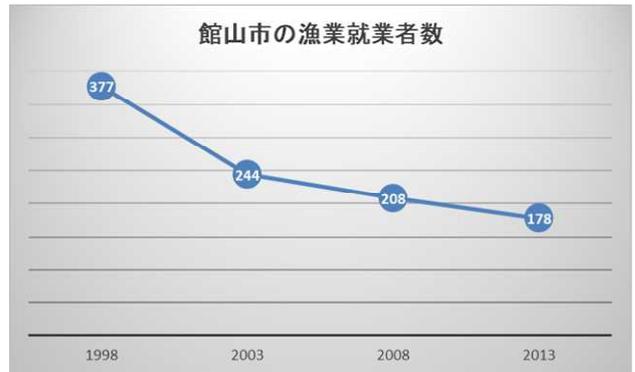


有害鳥獣被害額は、2016年には、2300万円を超えました。イノシシ、ハクビシン、タヌキ、カラスなど

## 漁業



館山市の漁業生産額は年間7億8千万円です。(2013年)



2013年の漁業就業者人口は1998年の47%に減少しました。



# 館山市での移住者受け入れについて

## 1. 官民一体での移住者支援施策

現在、館山市の移住相談窓口は“渚の駅”たてやまにあります。  
この窓口は、平成24年から、館山市役所とNPO法人おせっ会で連携して開設しています。  
相談される方のニーズに合わせて、館山での暮らしを具体的にイメージできるよう、必要な地域の情報を提供し、館山に「住んでから」を一緒に考えています。

## 2. そもそも「移住者支援は何のために行っているの？」

答え「館山市への“ヒト”の流れをつくるため」

- ・館山市の魅力を積極的に発信することで

①交流人口の増加 ②UJI ターン・孫ターンの増加 ③二地域居住者の増加

など、館山市への“ヒト”の流れを生み出す取組を強化しています。

- ・“ヒト”の流れを生み出すことは、①人口減少・労働力不足に歯止めをかけること

②地域活性化にもつながる若い世代の移住・定住を促進につながります。

Uターン…地方から都市へ移住し、再び地方に移住すること  
Jターン…地方から都市へ移住し、出身地近くの地方都市に移住すること  
Iターン…出身地とは別の地方に移住すること  
孫ターン…祖父母のいる地方へ移住すること

## 3. 相談窓口以外の移住支援

住宅支援	仕事支援	イベント・セミナー
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世帯向け家賃助成制度(約2万円/月)</li> <li>・空き家バンク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同企業説明会(会場は館山や東京)</li> <li>・起業支援事業補助金</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京で移住者向けイベントやセミナー</li> <li>・館山で移住体感ツアー</li> </ul>

## 4. 相談窓口への相談件数と移住完了者数

移住相談件数・移住完了者の実績(平成29年3月末現在)

平成24年から800件以上の移住相談、260人以上の移住を支援しています。

移住関連雑誌『田舎暮らしの本』で「第4回 住みたい田舎ベストランキング!」首都圏エリアで館山市が1位に

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	合計
移住相談件数		16	68	114	132	108	114	152	216	271	1,191件
移住完了者	1人	2人	12人	15人	20人	24人	29人	23人	28人	19人	173人
完了者	4人	7人	23人	28人	32人	47人	63人	58人	67人	30人	359人

グラフで見てみると・・・



移住相談者の数が年々増加しているね！

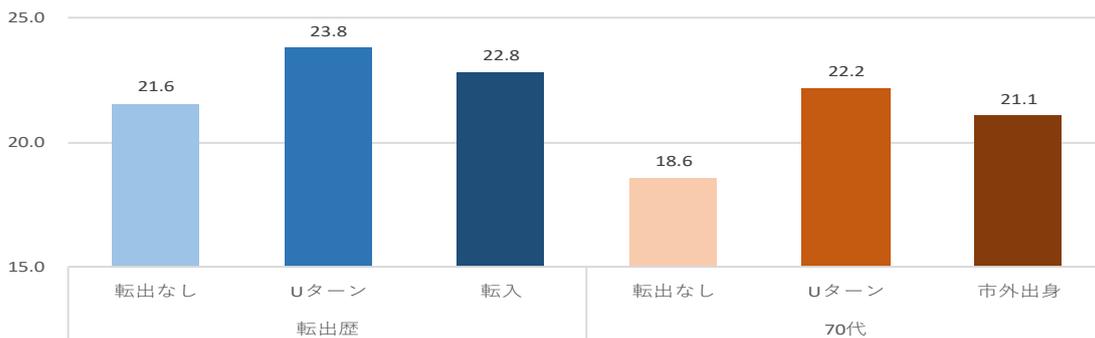
テレビでも見かけるようになったし、知名度が上がっているのかも



## 5. 移住支援のこれから

現在の動向	推測される課題
全国の自治体間で競争が激化	宣伝にお金がかかるため、財力があつたり、知名度のあるまちが有利？
田舎暮らしではなく、地方都市への移住希望者が増加	暮らしやすさが重視されている？ 館山市のPRポイントは？交通・教育・仕事・住居
移住のブームが落ち着き、シニア層の移住者が増加	定年退職後、落ち着いた暮らしを求めて移住。高齢化率がさらに高くなる？
景気が回復したことにより、若者がさらに東京へ集中	館山の若者も東京へ転出し、進学・就職してしまいがち？

## 人口の移動とつながり調査



館山市から市外へ転出し、再び館山市に戻ってきたUターンの人は、頼りになる「つながり」の数が多い。

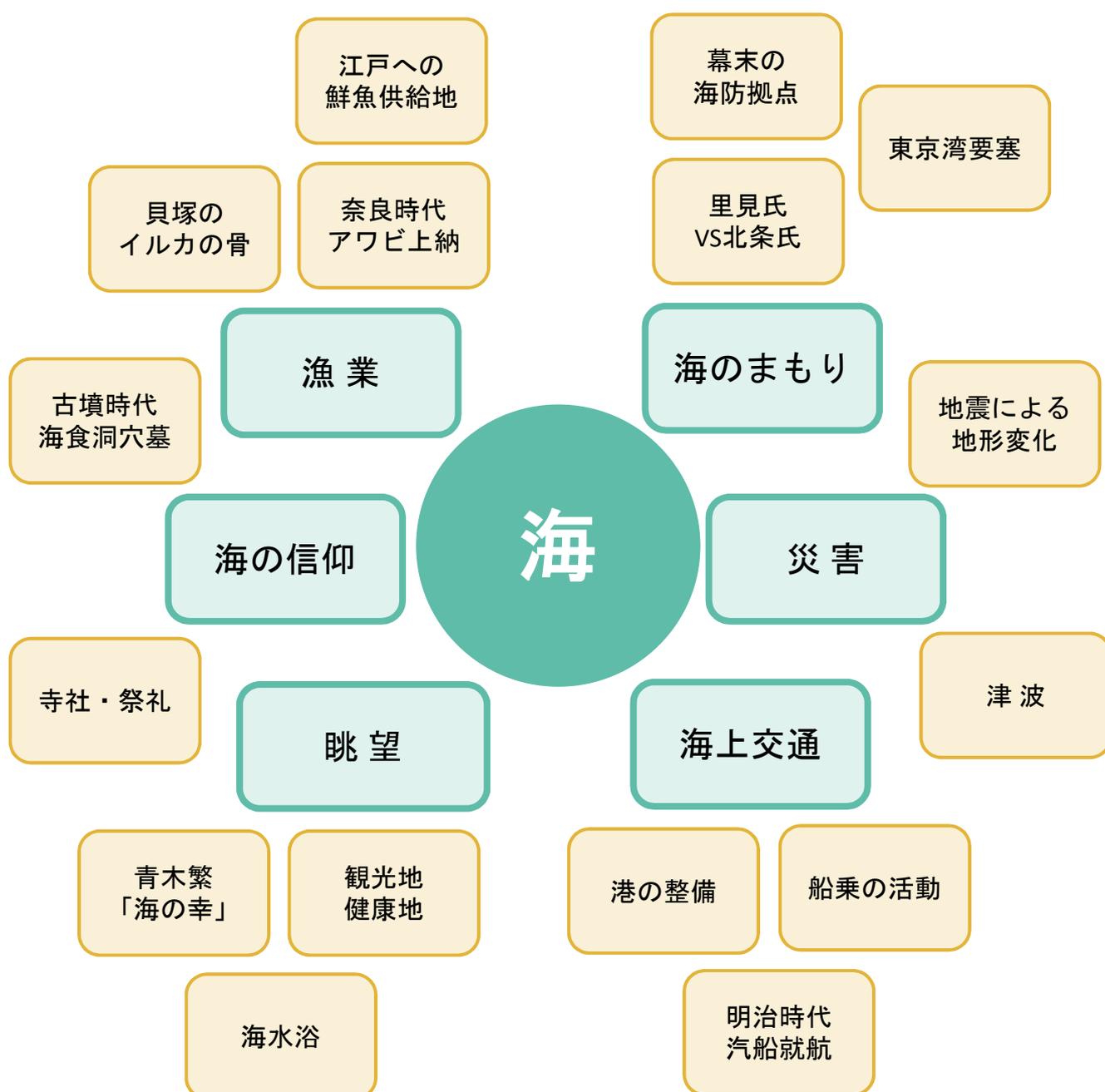
Uターンの人は、もともと館山市内に家族・親族・友人・知人がおり、市外に転出した際に市外で様々な友人・知人ができます。館山市に戻ってきた後に、さらに市内の友人・知人ができます。Uターンの人は、こうした多種多様なつながりを持っていることが、この結果に影響していると考えられます。

# 館山の歴史から未来を見つめる

～「海」と「交流」から読みとく館山の歴史～

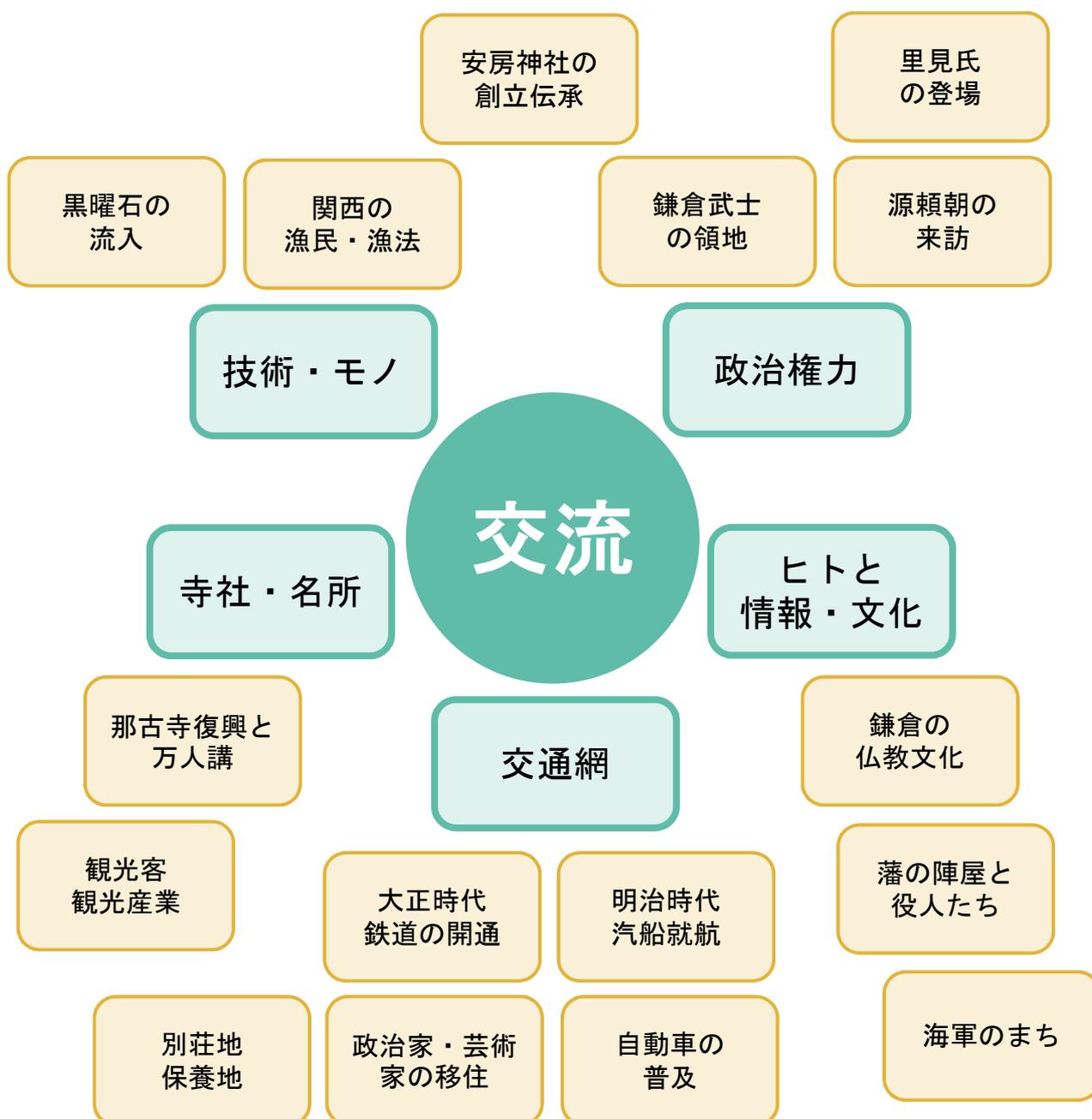
「歴史を学ぶこと」は、単に年代や人名を覚えることではありません。確認できる事象から、それが起こった時代や、社会・地域の特徴を考えることです。

歴史から館山の特徴をとらえることは、現在そして未来の館山を客観的に見つめることにもつながります。



## ■ここから見えてきた館山の特徴は？

- 1 海のめぐみ—生業と信仰—
- 2 行き来するヒトとモノ
- 3 海のまもりと首都防衛
- 4 技術・情報・文化の流入と活用



# 災害

## 今後30年以内の館山市での地震被害予測

### ・東海地震

発生確率 **70%以上** 震度 5強 最大津波高 5m

### ・首都直下型地震(都心南部直下地震)

発生確率 **70%以上** M7クラス 震度 6強

### ・南海トラフ巨大地震

発生確率 **70%以上** 震度 5強 最大津波高 11m

### ・相模トラフ沿い(関東大震災型)

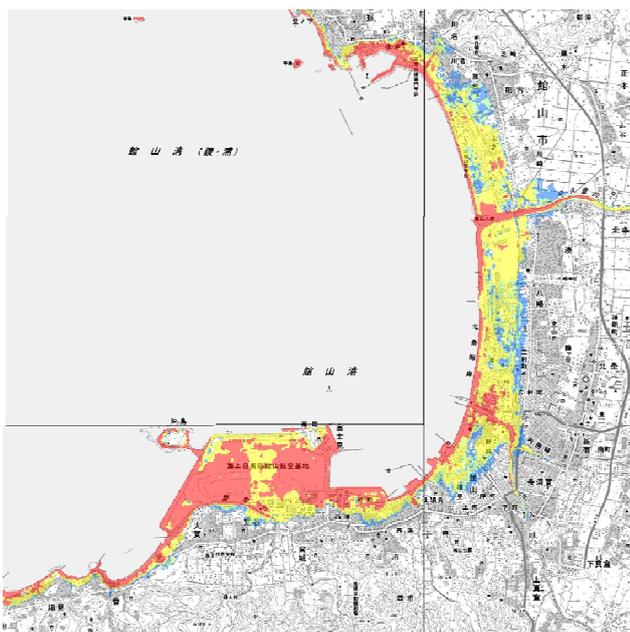
発生確率 5% (200~300年間隔) 震度 7 最大津波高 10m

### ・元禄地震型

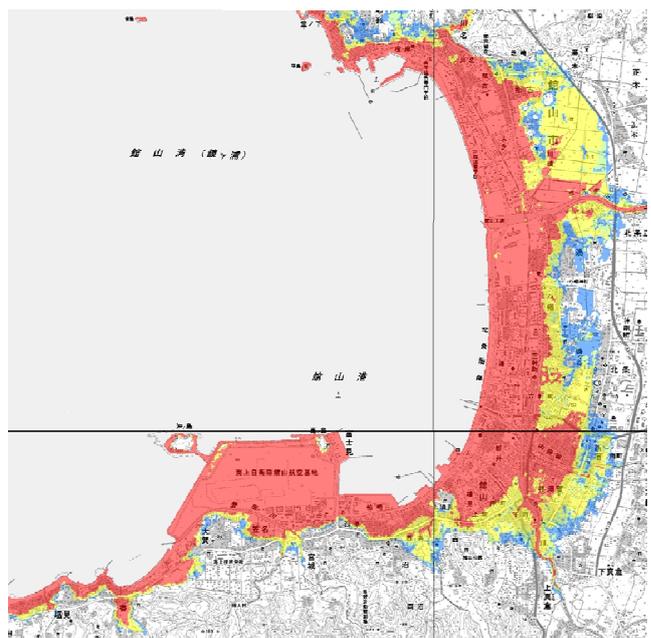
発生確率 0% (数千年単位) 震度 7 最大津波高 14.7m



5m津波による浸水区域



10m津波による浸水区域



千葉県防災ポータルサイト 津波浸水予測図

# 政策を考えるためのヒント

- すべてふたつの方向で考えることができます。  
どちらが、未来の館山市に合っているでしょうか。  
どちらが実現しやすいでしょうか。

## 人が足りない？

「人を増やす」 か 「仕事を減らす」 か

## 人が余る？

「人を減らす」 か 「仕事を増やす」 か

## お金が足りない？

「収入を増やす」 か 「支出を減らす」 か

## 場所が余る？

「活用する」 か 「壊してしまう」 か

- できれば、ルールづくりまで、考えてみましょう。

## 人を動かす必要がある？

どのようなことをすれば人が動く（職を変える、住む場所を変える、など）のでしょうか。

- ・ 税金を変える
- ・ 義務づける
- ・ 教育を変える
- ・ 儲かるようにする
- ・ 表彰する
- ・ 情報を出す
- ・ 場所をつくる
- ・ リーダーを育成する
- など

## 収入を増やす必要がある？

どのようなことをすれば収入が増えるのでしょうか。

- 未来（2040年）のために、今（2017年）からやっておいた方がいいことを探しましょう。

# ワークショップについて

「ワークショップ」とは、みんなで作業をして、何かを生み出すことです。全員が参加できるように気配りしながら、楽しく話し合いをしましょう。



多摩美術大学でのワークショップ

## ○ アイデア出しのルール

### ① 質よりも量

不完全なアイデアでも、ほかの人が拾ってふくらませてくれるかもしれません。たくさん出すことが重要です。

### ② かわった意見、歓迎！

ほかの人が思いつかないような意見、斬新な意見、違った視点からの意見など、歓迎です。

### ③ 批判しない

アイデア出しの段階では、批判してはいけません。出した意見に責任をとらせることも厳禁です。自由なアイデア出しを損ないます。

### ④ ほかに人の意見と合わせて考える

ほかの人の意見を眺めながら、「このアイデアとこのアイデアを一緒にしたらどうだろう」と考えてください。

## ○ 発言のルール

### ① ほかに人の話に相づち・リアクション（反応）を！

コミュニケーションの基本はリアクションです。ほかの人の話に何か反応してあげてください。相づちでも、くりかえしでもかまいません。

### ② みんなに分かりやすく伝えよう！

発言するときには、班の仲間に聞こえるように大きな声で発言しましょう。紙に書くときには、ほかの人に読めるように大きな字で！

### ③ 個人作業のときには、おしゃべりはしないで！

それぞれがアイデアを紙に書き出す時間には、おしゃべりしないでください。相談や議論は後で。

## ▷ 個人のアイディア出し

アイディア・意見を小さな紙（ポストイット）に書き出します。

- ・ アイディアひとつにつき1枚使ってください。
- ・ 名前を書く必要はありません。
- ・ ほかに人にも読んでもらえるように大きな字で、できるだけ丁寧（ていねい）に書きましょう。
- ・ のりがついているところが上になるように、のりがついていない方に書いてください。
- ・ 紙の色は関係ありません。

裏  
に  
の  
り

## ▷ 個人のアイディアを模造紙に貼る方法

アイディ  
ア……

- ① 手元のカードを出す順番を決めます。
  - ・ 最初の順番の人だけ決めればOKです。
- ② 最初の順番になった人は、自分が書いたアイディアカードから、1枚選んで、模造紙に貼ります。
  - ・ どのカードでもかまいません。出すときに一言説明しながらだしましょう。
- ③ このとき、そのアイディアに似たアイディアカードを持っている人は、最初の人カードの近くに貼ってください。
  - ・ カードは重ねないでください。模造紙のどちらかを上にして、見やすいようにきちんと貼りましょう。
- ④ その作業が終わったら、次の順番の人（最初の順番の右隣の人）が、自分のアイディアカードから1枚選んで模造紙に貼ります。
- ⑤ ここからは、全員のアイディアが貼られるまで、同じ作業の繰り返しです。



千葉大学生が陸前高田市で行った聞き取り調査のとりまとめ

## ▷ チームのアイディアのまとめ方

- ① 模造紙には、似たアイディアが近くにまとまって貼られていると思います。
- ② 模造紙にどのようにアイディア群を配置するのかを考えてください。
  - ・ 簡単にできそうなものは右、難しそうなものは左とか、個人向け、企業向けで分けるとか、年代で分けるとか、いろいろな配置方法があると思います。
- ③ だいたいの配置がきまったら、アイディア群を移動させて、見やすく配置してください。
- ④ 配置がきまったら、アイディア群を色マーカーで囲って、それぞれのアイディア群に名前をつけてください。
  - ・ マーカーで囲むのは配置が決まった後です。

## たてやま未来ワークショップスケジュール

▷2017年8月7日（月）

9:30 受付開始

9:45-10:10 オリエンテーション（未来市長バッジ交付、事前アンケート回答、「仲良くなろう」）

10:10-10:45 未来シミュレーター結果

10:45-10:55 休憩

10:55-11:10 つながり調査結果

11:10-11:25 館山市の産業の現状と展望

11:25-11:40 館山市での移住者受け入れ

11:40-12:00 館山の歴史から未来を見つめる

12:00-12:15 質問票の書き出し

12:15-13:00 昼食

13:00-13:30 質問への回答

13:30-14:10 未来市長が直面している課題の書き出し（グループ作業）

14:10-14:20 休憩

14:20-15:00 未来市長から今の市長への提言項目の書き出し（グループ作業）

15:00-15:15 提言の優先順位付け

- ・ 他のグループから「いいね」シールをもらいます。

15:15-15:25 休憩

15:25-15:40 提言発表の準備

15:40-16:10 未来市長から今の市長への提言発表・意見交換

- ・ 市長が出席します。

16:10-16:30 終了式（事後アンケート回答）写真撮影



メモ



## ▷ ワークショップ当日の持ち物など

服装の指定はありません（報道機関が入る可能性があります。あらかじめご了解ください。報道に支障がある方については、写真に写りこまないようにするなどの配慮をいたします。事前にお申し出ください。）。

筆記用具をもってきてください。

お弁当は支給されます（アレルギー等の事情により、代替食や弁当の持参を希望される場合は事前に伺います）。

飲み物は水筒などに入れて持参いただいてもかまいません。



## ▷ データ責任など

未来シミュレーター、現状比較などのデータは、千葉大学大学院社会科学研究院倉阪研究室OPOSSUMプロジェクトが責任を負います。地区別の将来地図（7-12ページ）は国立環境研究所のグループが、つながりに関するページ（25,26,32下ページ）は芝浦工業大学のグループが作成しました。また、「館山市での移住者受け入れについて」のページ（31,32上ページ）は館山市商工観光課、「館山の歴史から未来を見つめる」のページ（33,34ページ）は館山市立博物館に作成いただきました。

OPoSSuM(オポッサム)とは、「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」(Open Project on Stock Sustainability Managementの頭文字をとって通称「OPoSSuM」)のことで、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が推進する戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域にて採択された3カ年のプロジェクトです。代表は倉阪秀史(千葉大学大学院社会科学研究院教授)。

人口減少・超高齢化社会において持続可能な社会を実現するためには、資本ストック(ひと・もの・しぜん・しくみ)を健全に維持し、継承することが必要であり、そのために、各地域の資本ストックの将来推移を予測し、さまざまな世代が主体的に参画しつつ、それらの適切な維持・管理・活用(ストックマネジメント)を進めることが求められます。

※詳細は ホームページ：<http://opossum.chiba-u.jp/>

